

平成23年度 第3回 奈良県がん予防対策推進委員会 議事要旨

日時:平成24年2月23日(木) 午後2時～4時

場所:奈良医大蔵書会館・2階会議室

出席者:

(委員)大石元、伊藤高広、小林浩、細井孝純、中島祥介、藤井久男、佐伯圭吾、
岡田豊、鴻池通子、高野由子、馬詰真一郎

(オブザーバー)久保田幸治

(事務局)橋本安弘、大原賢了他

概要:(以下、主な意見・質問)

○ 県医師会の意見は重要であり、(委員欠席時には)県医師会に会議内容を伝え、意見をもらって欲しい。(委員長)。

(1) <議題1> がん検診受診率向上に向けての来年度の対応について

○ 特定健診個別通知に合わせたがん検診案内は都市部でも配布しているか。

(→殆どの市町村で個別通知は実施。内、協力市町村で案内を配布。)

○ 子宮頸がん予防講習会は種々の団体で実施しているが、(効果・効率を考えると)、時期、場所を調整してはどうか。(→調整したい。)

○ 健康増進計画作成は来年1年間の実施か。(→単年度実施である。)

○ タバコ対策の状況はどうか。

(→県内全市町村庁舎での施設内禁煙を進めている。タバコ対策推進委員会の充実強化も検討中である。)

(2) <議題2> 平成22年度市町村がん検診結果について

- 医大の精検結果回答率が悪いのは最近始まった話でなく、未受診・未把握率の上昇は他に原因があるのではないか。
- 子宮がんの精密検査結果表が県から病院に配布されなくなったため、病院から結果が返せないこともあるのではないか。(→確認する。)
- 精密検査の受診勧奨は市町村保健師が電話等で実施しているが、受診者数が増えると、要精検者数も増え、マンパワーが増やせない場合、受診勧奨機会が減ってしまう。
- 乳がんでは、検診機関や精密検査医療機関のキャパシティに問題がある。(→調査を実施する。)
- 精密検査医療機関は守秘義務を理由に情報提供を拒否する場合がある。がん情報は本人同意なしに情報提供できることを関係者に周知すべき。(→どのような対策が取れるか検討する。)
- 受診者増により市町村負担が増える。将来的な話として、レセプトによる精検受診把握、地域がん登録による精検結果把握ができればよい。
- がん登録データの公表に3～5年という時間がかかるのは問題。子宮頸がんワクチンの効果も測りたいので、積極的な情報提供をお願いしたい。
- 特定健診受診率と同様、がん検診受診率でも市町村へのペナルティを設けられないか。
- 委員会と検診実施者の連携が無い。検診台帳未整備の市町村の担当者に委員会に出席頂き、意見をもらってはどうか。理念論を議論しても仕方ない。(→毎回、委員会意見に基づき事務局が可能な限りの対応を行っている。)

- (3) <議題3> 平成23年度胃がん検診従事者研修会の開催状況について
- 研修会参加医師や市町村担当者(保健師)と意見交換ができ、現場の意見が把握でき、参考となった。精度管理は始まったばかりと考えている。
 - 奈良県の陽性反応的中度は全国一高いが、早期がん発見率は全国一低い。進行がんが多いと陽性反応的中度は高くなるので、これらの指標はセットで観察すべきである。
- (4) <議題4> その他(部会の設置、第2期県計画作成スケジュール)
(特になし)

以 上